

## 一般社団法人大日本武徳会としての 未来的展望と課題

濱田 鉄心

本会が積年の願望であった法人化を達成して一年数カ月が経過した。武徳の根本が文武の両輪であるという概念は、本会の歴史的な観点から育まれてきたゆるぎない伝統である。その両輪とは正に法人化した組織の運営に関する輪と武道活動の輪が一体となって発揮される堅忍不拔の指導力にかかっていた。本会理事会は昨年十七回に亘り会合を重ね、社団法人法と定款に則り新しく刷新された内規にもとづいて多くの議題を討議し適切な組織政策のポリシーを実施してきた。本年度二月八日第一回定時社員総会における議題の中で本会が掲げる主要目的が明らかにされ、平成二十五年度の事業報告、収支決算報告が承認され、社員総会全員一致で平成二十六年度の総裁追悼記念事業と後援協賛事業並びに収支予算表が承認された。平成二十四年度に法人化が達成された後、本会の伝統武道活動の発展と促進を目的として武道執行専門委員会が設立された。これは画期的な試みであって本会が歴史的に誇っていた往年の武道専門学校の再来を期待するものであった。我が国において武道界が森羅万象の状態で存在している中、大日本武徳会の優秀な指導者が集結し、その叡智と豊富な体験をもとに独自のリーダーシップが発揮される事は、武道執行専門委員会の大きな能動的課題であると思われる。この委員会が本会の目指す伝統武道の保存

継承に果たす役割と責任は余りにも重大である事は言うまでもない。

法人化した組織の運営と武道活動の運営はこれからも多くの先生方の意見を参考にして進めていかなければならない。さらなる発展の為に改善されなければならない点は山とあることは間違いない。その為にさらに理事会のみならず全てのリーダーシップに貢献する人材を充実させなければならぬ。新しい専門委員の一段と積極的な参加が期待されていることも確かである。即ち、本会のさらなる発展は何よりも優秀で献身的な人材の発掘にかかっている。基本的に武徳会の城は全て人であってこの献身的な人達によって現在と未来は構築されいくと確信する。

昨年から以下の未来的目標が理事会において協議されてきた。これ等は本年度実現に向けて最大限の努力をしなければならない。会員全員が一丸となって対処すれば必ず達成できると確信したい。

- 一、平成二十六年度の総会員数は一〇〇〇人とする事。会員を増やすことは本会の最大の課題である。
- 二、平成二十六年度の段位称号審査受審者をさらに奨励し大きく増やす。武道執行専門委員会の指導的活躍を期待する。
- 三、平成二十六年度青少年全国武徳祭に前回よりさらに青少年参加者を募り、大きく盛り上げる。目標は全国武徳祭と同等もしくはそれ以上の規模とする。武道教育を通じて青少年育成にはさらに力を入れる。
- 四、平成二十六年度の収支予算は二十五年度につづいて健全な黒字運営として計上し、世界大会の準備資金を着実に設定する。